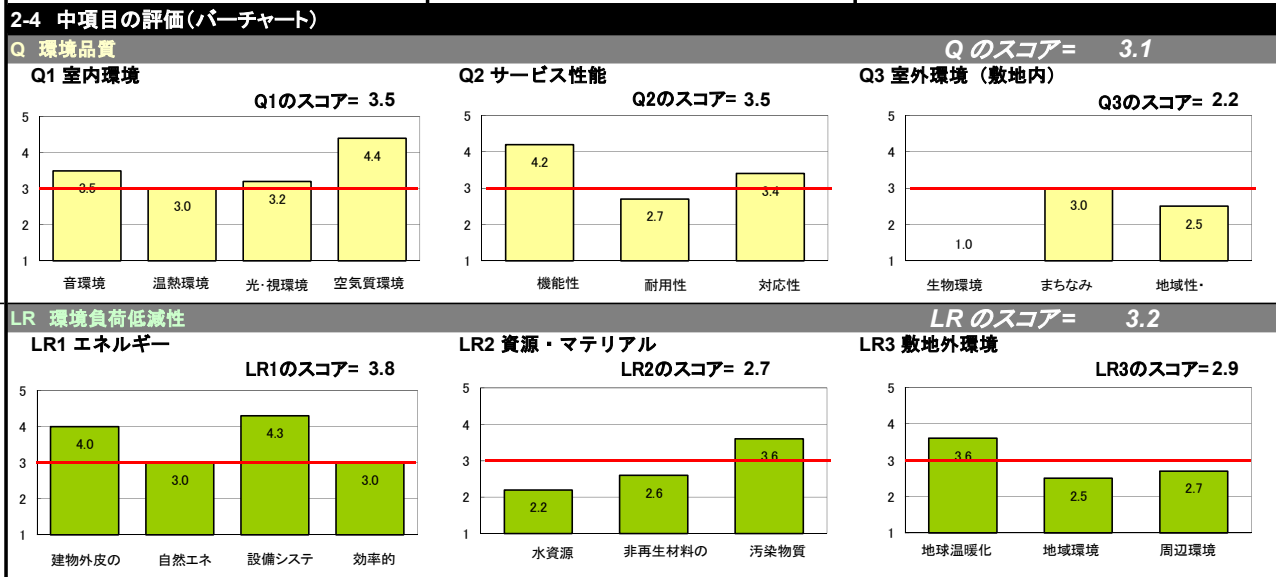
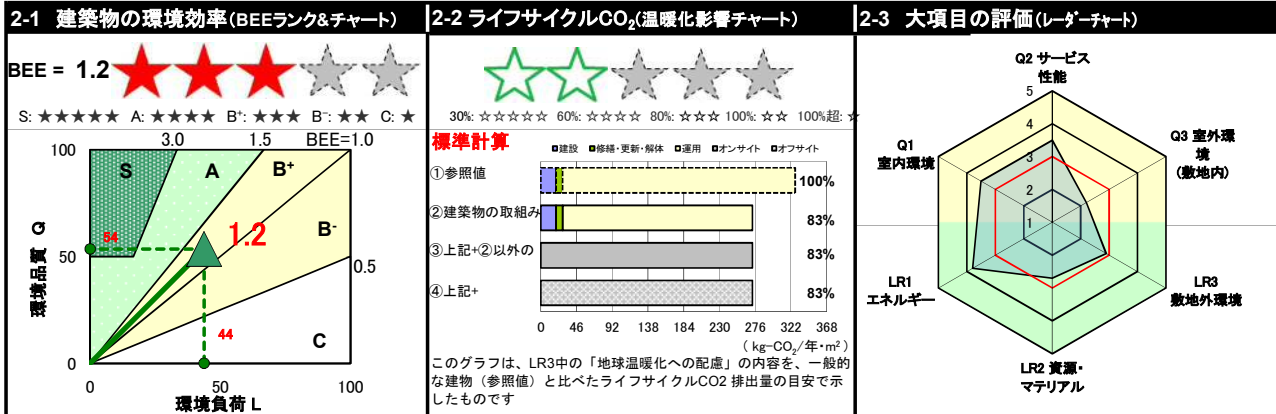




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)月寒中央通6 新築工事	階数	地階1階地上10階
建設地	札幌市豊平区月寒中央通6丁目371番4	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	72 人
建物用途	物販店集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2018年3月 竣工	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	714 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2018年3月6日
建築面積	357 m <sup>2</sup>	作成者	加藤 達矢
延床面積	3,228 m <sup>2</sup>	確認日	2018年3月6日
		確認者	加藤 達矢



### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 西側住居に配慮し、国道側に建物を寄せて近隣の環境への影響を低減させ、また建物の色を明るい色にすることで周囲への圧迫感を低減した。	<b>A 省エネルギー</b> 断熱を強化するとともに北ガスエコジョーズを使用し、環境への負荷を低減した。
<b>B 省資源等</b> 住戸間の境壁に乾式間仕切りを採用するなど分別しやすい材料を使用している。	<b>D 雪処理</b> 敷地内にロードヒーティングを行った。
<b>C 緑化</b> 道路側に植栽を配置した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 (仮称)月寒中央通6 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体-共用部分		住居-宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
塩津内は特に気にならない騒音レベルを現地で確認しました。住戸は国道側の住戸(Aタイプ)。										
3.0 0.15 3.7 1.00 3.5										
1.2 遮音										
アルミサッシ+複層ガラス入り樹脂サッシを使用しています。										
3.0 0.50 3.5 0.50										
1 開口部遮音性能										
アルミサッシ+複層ガラス入り樹脂サッシを使用しています。										
3.0 1.00 5.0 0.30										
2 界壁遮音性能										
乾式遮音耐火壁を使用しています。										
- - 4.0 0.30										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
- - 2.0 0.20										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
- - 2.0 0.20										
1.3 吸音										
- - - -										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
冷暖房設備を設置し、評価基準の通りの室温設定とします。										
1.0 0.50 5.0 0.50										
2 外皮性能										
断熱性能基準を十分に満たしています。										
1.0 0.37 5.0 0.38										
3 ゾーン別制御性										
- - - -										
2.2 湿度制御										
1.0 0.20 1.0 0.20										
2.3 空調方式										
3.0 0.30 3.0 0.30										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
住戸部分の開口部を大きくし、各住戸へ昼光を十分に取得しています。										
1.8 0.41 4.0 0.40										
2 方位別開口										
- - 3.0 0.30										
3 昼光利用設備										
省エネ										
3.0 0.42 3.0 0.20										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
省エネ										
1.0 1.00 3.0 1.00										
2 映り込み対策										
- - - -										
3.3 照度										
共用部:廊下 照度:200lx 住居:CタイプLD 照度:400lx										
3.0 0.20 5.0 0.20										
3.4 照明制御										
- - - -										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
内装材は全てF☆☆☆☆を使用しています。										
5.0 0.60 5.0 0.63										
5.0 1.00 5.0 1.00										
4.2 換気										
1 換気量										
必要換気量以上の換気量を十分に確保しています。										
5.0 0.40 3.0 0.38										
2 自然換気性能										
- - 5.0 0.50										
3 取り入れ外気への配慮										
- - 1.0 0.50										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
- - - -										
2 喫煙の制御										
- - - -										

Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.5
<b>1 機能性</b>			<b>4.7</b>	0.40	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			-	-	<b>4.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応	各住戸に100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境を整備しています。		-	<b>4.0</b>	1.00	
3	バリアフリー計画		-	-		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>5.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2	リフレッシュスペース		-	-		-	
3	内装計画	内観パースを作成し事前にデザインの検討を行っています。	5.0	1.00	<b>5.0</b>	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>4.5</b>	0.50		-	
1	維持管理に配慮した設計	清掃しやすく汚れのつきにくい仕上げ材料を使用しています。	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	十分な清掃用具室や資材保管場所を確保し、廃棄物保管場所の確保や点検等に配慮しています。	4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.7</b>	0.30		-	<b>2.7</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.8</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>1.8</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	1.00	3.4
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	-	<b>4.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり		平均階高3.0m	-	-	<b>5.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	-	<b>3.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	1.00			
1	空調配管の更新性			1.0	0.20			
2	給排水管の更新性		各階のPSを間口を広く、スペースに余裕をもって配管しています。	4.0	0.20			
3	電気配線の更新性			3.0	0.10			
4	通信配線の更新性			3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		耐久性の高い設備機器を使用しています。	4.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	2.2
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>緑化</b>		<b>1.0</b>	0.30		-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>緑化</b>		<b>3.0</b>	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>2.5</b>	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	<b>雪処理</b>		<b>3.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		<b>省エネ</b>	断熱材の厚さを十分に確保し、熱負荷を少なくしました。	<b>4.0</b>	0.20		-	4.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>省エネ</b>		<b>3.0</b>	0.10		-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		<b>省エネ</b>	[BEI][BEIm] = 0.88	<b>4.3</b>	0.50		-	4.3
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-		-	
4.1	モニタリング	<b>省エネ</b>		-	-		-	
4.2	運用管理体制	<b>省エネ</b>		-	-		-	
集合住宅の評価				<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	<b>省エネ</b>		3.0	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	2.7
<b>1 水資源保護</b>				<b>2.2</b>	0.20		-	2.2
1.1 節水				<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>2.6</b>	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減		<b>省資源</b>		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		<b>省資源</b>		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		<b>省資源</b>	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		<b>省資源</b>	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		<b>省資源</b>		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		<b>省資源</b>	再利用しやすいよう、建材等の選択を考慮しています。	4.0	0.20		-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を使用しています。	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30		-	2.9
1 地球温暖化への配慮		省資源	CO2の排出量削減を低減し、環境へ配慮しました。	3.6	0.33		-	3.6
2 地域環境への配慮				2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 熱化 蓄処理		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		適切な駐輪場、駐車場を確保し、出入りをスムーズに行えるように配慮しました。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音			3.0	1.00		-	
2	振動			-	-		-	
3	悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				-		-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.0)

1 建物概要					
建物名称	(仮称)月寒中央通6 新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+
建物用途	物販店,集合住宅,				
延床面積	3,228.2 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	<b>最重点項目</b> <b>省エネルギー</b>	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア20%以下                  ★2=スコア20%~40%以下                  ★3=スコア40%~60%以下                  ★4=スコア60%~80%以下                  ★5=スコア80%以上</p>
	省資源等	
	緑化	
	雪処理	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
<b>A 省エネルギー</b>			<b>合計</b>	<b>16.6点</b>	／24.2点
Q1 温熱環境	スコア	0.3 / 1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2 / 4.0
Q1 光・視環境	スコア	0.9 / 2.8	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 / 2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.6 / 10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 / 4.0
<b>B 省資源等</b>			<b>合計</b>	<b>13.2点</b>	／23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.7 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 / 1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.6 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1 / 4.4
<b>C 緑化</b>			<b>合計</b>	<b>6.4点</b>	／15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 / 6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 / 2.3			
<b>D 雪処理</b>			<b>合計</b>	<b>2.0点</b>	／3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと